

▼編集後記

『ゲシヒテ』第八号をお届けいたします。

本誌の発行主体であるドイツ現代史研究会は、日本におけるドイツ史研究のパイオニア世代から現役の大学院生まで、幅広い世代の方々によって支えられています。研究会の創設世代と、今まさにドイツ史研究に足を踏み入れたばかりの大学院生とのあいだには、半世紀以上の年齢差があるわけですが、その間、研究対象であるドイツはもちろん、日本社会も大きく変貌し、ドイツ史研究の意味もまた多様化してまいりました。

今、なぜ日本人がドイツ史を研究するのか——本号では、こうした問いを掲げた若手研究者によるシンポジウム記録を掲載しました。各世代、各人にとつてのドイツ史研究の意味をあらためて考えるきっかけとなれば幸いです。また、論文についても、若手、中堅、ベテランと各世代の研究者からご論考をお寄せいただきました。問題意識は様々であっても、同じドイツ史研究に携わるものが研究成果を発表し、議論に付すための場としての役割を、本誌が果たしていくことができればと思います。(TN)

『ゲシヒテ』第八号は、論文・書評からシンポジウム記録にまで及ぶ広範な成果がおさめられています。特に、シンポジウム記録は、本誌第四号の特集「ドイツ史のなかの『六八年』」の「大会趣旨」で挙げられた論点の一つである、比較、ひいては位置づけの問題とも関連する、興味深い内容となっているかと思えます。本号には、クナウト氏の御論考も掲載されており、よ「外国史を研究すること」の意味を常に問い直し続けねばならないと感じております。

最後に私事ではありますが、本号でもって私は編集実務の任を外れ、別担当に移ることになりました。二年間有難うございました。(TY)

▼編集委員

服部 伸 (同志社大学)
高橋秀寿 (立命館大学)
中野智世 (成城大学)
近藤潤三 (元・愛知教育大学)
丸島宏太 (敬和学園大学)
北村昌史 (大阪市立大学)

▼編集実務

山岸智弘 (同志社大学・院)

ゲシヒテ

第80号

2015年3月31日発行

▼編集発行

ドイツ現代史研究会 (代表・高橋秀寿)
〒602-8580

京都市上京区今出川通烏丸東入

同志社大学文学部 服部伸研究室内

▼印刷

株式会社オーエム